

【開催概要】

日時：2021年6月13日(日)11-18時(昼休憩含む)

会場：滋賀里劇場

講師：森田智子氏、坂本幸子氏 (Jelly Beans)

主催：りっとう演劇祭実行委員会

企画・制作：てんこもり堂

参加費：2000円

参加者：9名

(参加者は、りっとう演劇祭の参加団体、社会人劇団に所属している役者や演出家、パフォーマー、個人で照明をしている人など)

【テーマ】

スタッフ力を強化して、みんなでワンランク上の【りっとう演劇祭】を目指そう！

りっとう演劇祭は、参加者みんなで作る演劇祭です。

【ワークショップで伝えたいこと】

- 劇場とスタッフワークは基本を知れば、怖いものではない。
- 舞台を知る事で、劇場を利用する時の心得を身に付けて、スタッフとのコミュニケーション能力をアップしよう。
- 学んだ知識を今後の舞台・表現活動に活かしていこう。

【ワークショップ内容】

- ① 舞台を使用する際の安全と心得について
- ② 舞台の概要と舞台用語
- ③ 照明の基本動作
- ④ スポットの種類、明かりの見え方
- ⑤ 照明仕込み図の読み方
- ⑥ 照明仕込み&明かり作り体験
- ⑦ 振り返り&質疑応答

*新型コロナウイルス対策として以下のことをおこないました。

- 受付時に非接触型体温計で体温チェック、手指の消毒、マスクの着用
- こまめな休憩と水分補給
- 会場内はエアコンを入れつつ、扇風機を使用して空気を動かし、出来る限りドアをあけ喚起。
- 熱中症対策のため、塩分タブレットの提供
- 椅子やテーブル等備品の除菌作業

ワークショップ風景











【参加者の声】

- 照明を学ぶにも基本的な舞台用語や仕組みがわからないといけないので、そのあたりも同時に学べてよかった。
- 劇団で演出を担当している。照明スタッフとどのように話をしていけばよいのかとても参考になった。
- 普段小劇場で照明をやっているが、独学でやってきたので色々なプロの人の話を聞けてよかった。配布された資料がとてもわかりやすく、大学の後輩スタッフ等に教える際にも使用できるのでありがたい。
- どこかの劇場の例えではなく、「栗東さくら」という具体的な劇場についてイメージしながら学べたのがよかった。
- 他の参加者の作業をみて、正しい方法・間違った方法が明確にわかり、自分の作業に活かすことが出来てよかった。
- 最後の明かり作りを通して、演劇は役者だけでなく照明や音響等いくつかの専門性がひとつになって生み出されると学んだ。何種類もの装置と色の組み合わせがおりなす幾通りの光が物語の世界へと観客をいざなう。
- 初めて滋賀里劇場に来ました。滋賀の風景にも癒され、ほっこりして良い劇場だなと思いました。
- 少し照明の前知識があったので楽しめた内容でした。もし何も知らない状態だったら、きつついていけなかったと思うので、せめて二日間は欲しい内容でした。ほぼ参加者の方は舞台経験者みただったので、そこ向けの内容だったのかなと思います。

参加者 9 名のうち 4 名が、りっとう演劇祭 2021 の 7/17 照明仕込みに参加。
実践を通して照明 WS で学んだことの振り返りをおこなうことが出来た。
また 7/18 の演劇祭本番の照明裏方スタッフとして、2 名が参加した。

【まとめ】

- りっとう演劇祭の参加団体以外にも様々な方が参加して下さり大変よいワークショップとなった。
 - りっとう演劇祭は「参加者みんなで作る演劇祭」を掲げているため、出演者も出番が終わったらスタッフとして裏方をおこなうが、今回コロナウイルス対策として、出演者とスタッフが出来るだけ交わる環境を作らないようにする必要があり、そのためにはスタッフ力をあげることが大変重要であると言える。(たくさんのスタッフがいれば良いということではなく、適切な人員配置や作業をおこなえるか等が大変重要)
- そのために今後もスタッフ力の底上げを少しずつだがおこなっていく必要がある。
- 照明ワークショップは当初 1 月に開催予定だったが緊急事態宣言の発令もあり、6 月にずれこんだ。りっとう演劇祭の参加団体で参加したい方もいたが、6 月だと本番に迫って稽古などで参加しにくい状況があるため、今後は開催時期を 2~4 月あたりで考える必要があると思う。